

学校だより 人・地域・学校を結ぶ

# むすぶ



「立志」を育み「気概」を養う だれもが幸せになる学校

新潟市立結小学校

令和5年11月15日号



## 「の」の返事。

主幹教諭 渡部香世子

「置かれた場所で咲きなさい」の著書・渡辺和子先生の書かれた「現代の忘れ物」（日本看護協会出版会）の中に、こんなお話があります。

「の」の返事。

相手が「暑かった」と言ったとき、「夏だから暑いのは当たり前でしょう」とは言わずに、

「暑かったの」

相手の言葉に「の」をつけて返す。

「どうして？」と相手に尋ねたり、自分の意見を言ったりする前に、相手の言葉を素直に丸ごと受け取るというお話です。

私は、言葉がうまく受け取ったり返したりできているか、不安になるときがあります。仕事帰りの車内では、「あの返し方は、優しくなかったな。」「別の言い方の方が、感じがよかったなあ。」など、毎日一人反省会です。

また最近、「頑張ってるね。」という言葉は、使い方が難しいと感じています。この言葉を聞いて、「よし。頑張るぞ!」とスイッチが入る人もいれば、「いつも頑張っているのに、まだ頑張らなきゃいけないのか。」と思う人もいます。相手が疲れている時や、時間に余裕がない場合には怒らせてしまうかもしれません。

言葉の受け取り方は、人それぞれです。それは相手との関係性によるものが大きいのではないのでしょうか。大人と子ども、先生と児童、ということではなく、心の距離が近ければ、伝えたいことが伝わるように思います。

結小では、職員全員が、子どもたちのことをよく理解して、一人一人と心を繋ぎたいと考えています。やり方を工夫して、心の距離が近くなるように、言葉を互いに素直に伝え合えるように努めています。毎日元気いっぱい挨拶したり、朝玄関前で子どもたちと言葉を交わしたり、黒板にメッセージやイラストを描いて子どもたちを出迎えたり…、分かる授業のための教材準備も子どもたちを大切に思うからこそ、続けることができます。

これからも言葉を素直に伝え合える温かい学校を目指し、子どもたちがのびのびとたくましく成長できるように努めてまいります。ご家庭や地域でも、皆様のできる形で、引き続き子どもたちへの言葉掛けをお願いいたします。



# かかわりを通して自分の考えを深める結の子

友達とかかわることで、自分自身の考えを深めていく子どもを育てることを目指して授業づくりを行っています。各学年に応じて、様々なかかわり方が見られますが、どの学年でも一生懸命話し合ったり、教え合ったりして自分の考えを深めようとする姿が見られます。具体的な姿を紹介します。

## 1 グループ間でのかかわり

6年生の総合的な学習では、キャリア教育として、自分の生き方や将来の働き方について調べたり考えたりしています。子どもたちは生き方や働き方を示した本を読み、一人一人が2ページ程度要約をし、お互いに発表し合いました。そしてその発表内容に対する疑問を出しました。

疑問に対して、グループ間では、その疑問を解決するための方法や、調べることをお互いにアドバイスしました。友達のおかげで新しい視点をもつことができていました。



なりたい仕事にはどうしたら就くことができるだろう？

インターネットでどんな資格が必要か調べてみるとどうかな。

自分になりたい仕事に就いている人にどうやったらなれるか聞いてみたらどうかな。

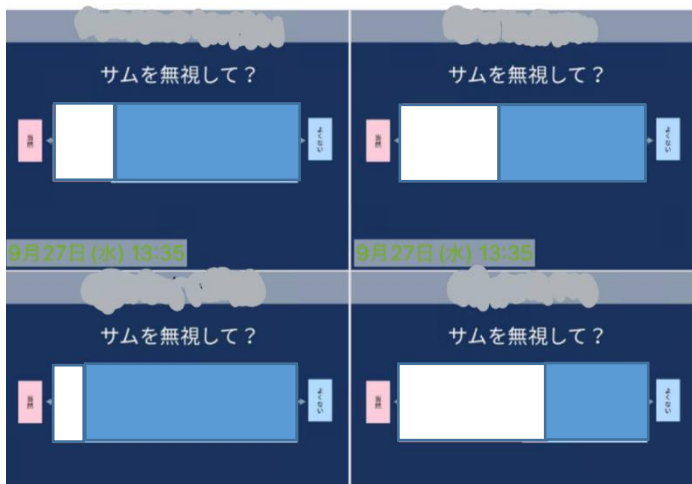
## 2 視覚的に「かかわりたい」という気持ちをもたせる

5年生の道徳では、登場人物がとった行動について、自分ならどう思うかを授業冒頭で問う場面がありました。仲間の和を乱す人物を無視するという行為は当然か、よくないかを考えます。

すると、子どもたちは、次の考えに分かれました。『和を乱しているのだから無視されて当然だ。』『和を乱したとしても無視するのはいじめだと思う。』という考えです。

左の図は、メーターで自分の気持ちを表したものです。それを全体に見せることで、「なんでこう考えたのかな？」という気持ちをもたせることができていました。

友達の意見を聞きたい、知りたいという気持ちをもてると学習に向かう意欲がぐんと高まります。これからもそのような授業になっていくよう、学校全体で研究していきます。



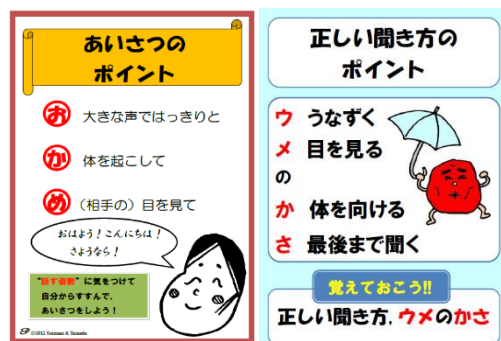
前期のアンケートではかかわることで考えに深まりを感じている子どもが70%以上いました。今後も学習を充実させていくように職員一同努めてまいります。

# ピア・サポート活動紹介

子どもたちが社会性を身に付け、よりよい人間関係を築けるようにするためにピア・サポートプログラムに取り組んでいます。毎週木曜日のピア・サポートタイムで人とかかわり方を学習したり、学習したかかわり方を生かして人の役に立つ活動をしたりしています。これまでの活動をご紹介します。

## 1 あいさつ・上手な聞き方

よりよい人間関係は、よりよいあいさつや相手の話を聞くことから始まります。4、5月には「おかめ」や「うめのかさ」の合言葉を使ってあいさつや話の聞き方が上手になるように取り組んでいます。ピア・サポートタイムの時間にゲームなどをしながら練習し、合言葉でお互いのよいところを認め合っています。



## 2 非言語コミュニケーション

人とかかわるときには、どんなことに気を付けてかかわるとよいでしょうか。それは表情や声の調子などの非言語です。人は非言語から相手の気持ちや機嫌などを読み取っています。それも8割以上です。そう言われてみると確かに、不機嫌な顔と声で「ありがとう」と言われても、感謝されているとは感じません。そのことを学習した後で、友達の気持ちに合わせてかかわる練習をしました。

## 3 ペア学年でのサポート活動（学習支援活動）



結小学校では、縦割り班の中でも特に1・6年生、2・4年生、3・5年生がペア学年となっていて、行事や清掃などで協力して活動をしています。ペア学年でのサポート活動とは、ペア学年の下学年の学習や生活を上学年がサポートをする活動です。

これまでは、上学年が下学年に算数の学習を教えたり、アサガオの種を入れる袋作りを手伝ったりするといった活動を行ってきました。サポート活動を行う前には一人一人が計画を立て、これまでのピア・サポートタイムで学習したことが使えるように準備をします。活動中はきちんと話を聞いたり、相

手を認める言葉を使ったり、笑顔でかかわったりする姿がたくさん見られます。このような活動をきっかけに縦割り班清掃などでも自然に声が掛けられるようになり、よりよい人間関係がつけられています。

## 4 ひしのみハッピータイム（縦割り班遊びの時間）

ピア・サポートタイムに縦割り班でやりたい遊びを決めて楽しく遊ぶのが「ひしのみハッピータイム」です。遊びを決める時間には、班長を中心にやりたい遊びを出し合って、みんなが楽しめる遊びを決めていました。「1年生は何がしたい?」と聞いたり、「みんなこの遊びのやり方分かる?」と確認したりして話し合っていました。みんなのことを考えながらかかわる姿が素晴らしかったです。

ひしのみハッピータイムの時間には、子どもたちの楽しそうな声があちこちから聞こえてきました。低学年の子にも分かるようにヒントを出してクイズをしたり、うまく進めなくても他の学年の子がフォローしてくれたりして、異学年で楽しく遊ぶにはどんなことに気を付けたらよいかを体験的に学ぶ機会となっています。





可能性と個性を伸ばす

# 特別支援教育



特別支援教育とは、

子ども一人一人の教育的ニーズに応じて、生活や学習上の困難を改善または克服するために適切な指導や必要な支援を行っていくものです。

障がいのある子どもへの教育にとどまらず、一人一人が能力を発揮しつつ、自立して社会に参加し、支え合う共生社会をつくるための資質・能力を養うことを目的としています。

## お子さんのことで気になることはありませんか？

お子さんの様子で気になることや困ったことはありませんか？これらは、学校生活の中で、子どもたちによく見られる傾向です。これらの様子が見られる原因は様々考えられますが、いずれも適切な指導や支援が必要とされる事例です。

<p><b>ちょっと落ち着きがないように思うのですが</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人の話を黙って聞くことが苦手</li> <li>・感情を抑えられないことがある</li> <li>・集中が続かない、すぐに飽きる</li> <li>・忘れ物が多い</li> <li>・整理整頓が苦手</li> <li>・ずっと席に座ってられない</li> </ul>	<p><b>得意な学習と苦手な学習が極端なように思うのですが</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・音読が苦手(とばして読んだり、勝手読みをしたりする)</li> <li>・漢字がなかなか覚えられない</li> <li>・文を書くことに抵抗感</li> <li>・忘れ物が多い</li> <li>・計算が苦手</li> <li>・文章問題で何を問われているのか分からない</li> </ul>	<p><b>自分へのこだわりが強いように思うのですが</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えをまげようとしない</li> <li>・一人で遊ぶことが多い</li> <li>・相手を傷つけるような言動をとってしまうことがある</li> <li>・自分のやり方があり、違う方法に出合ったときに戸惑う</li> <li>・視線がなかなか合わない</li> </ul>
------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## 🌸🌸🌸 個に応じた適切な支援が必要になります 🌸🌸🌸

学力がなかなか定着しなかったり、友だちとの良い関係が築けなかったりしたときに、「本人が怠けている」とか「本人の努力が足りない」などの誤解を受けてしまう場合があります。このような誤解が原因となり、周りからの叱責が多くなると、学力が身に付かないばかりか子どもの自尊感情が低くなったり、反抗的になったり、引きこもったりするなどの二次障がいを引き起こしてしまいます。お子さんの困り感を早期に発見して、適切な指導や支援を行うことが大切です。

## 🎵🎵🎵 結小学校では 🎵🎵🎵

結小学校では、子どもたち一人一人を見つめ、その子の教育的なニーズに応える指導や支援を行うようにしています。各教室では、どの子どもも学習活動に集中しやすくするために、教室の前方の視界がすっきりするよう掲示物の貼り方に配慮しています。また、子どもたちの様子で学習や生活上で困難があると思われる場合には、保護者の皆様と連携を図りながら、個別の教育支援計画を作成するなど、支援や指導方法を考える体制をとっています。さらに、必要に応じて専門機関と連携し、アドバイスを受けることもできます。



## ★ ★ お子さんの豊かな未来のために家庭と学校で連携していきましょう ★ ★

お子さんの様子で気になることや心配なことがありましたら、まずは、学校にご相談ください。担任、スクールカウンセラー、特別支援教育コーディネーター、教育相談担当職員がお子さんに合った支援の仕方を保護者の皆様と一緒に考えていきます。どうぞ遠慮なくご相談ください。